

## 介護実践における認知症の攻撃行動対応モデルの検討

佐藤 美和子\* 東海大学課程資格教育センター  
長田 久雄 桜美林大学大学院老年学研究科

攻撃行動は、認知症の行動・心理症状（BPSD）の中でも、特に対応困難な症状の一つである。本研究は、認知症の攻撃行動の理解とケアに、心理学における攻撃行動モデルがどの程度適用できるかを検証する。そして、新たに認知症の攻撃行動の発生と対応を説明するモデルを作成することを目的としている。13箇所の高齢者施設（入所・在宅）の介護職員に対して、攻撃行動のある利用者について調査を行った。攻撃行動に関する担当介護者による観察記録と、他の介護者によるアンケートの結果を分析した。その結果、認知症の攻撃行動の多くは、介護者が認知症者に介護を目的に関わる時に、介護者に向けて起きていることが確認された。攻撃行動の発生については、心理学的モデルで説明が可能であったが、対応については修正が必要であった。調査結果の成功した対応を基に、新たに介護実践における認知症の攻撃行動対応モデルを作成した。このモデルは、「直接的身体介護に対する反応」である攻撃行動と「自発的行動への介入に対する反応」である攻撃行動のどちらにも適合した。本モデルを基に、認知症の攻撃行動の発生について理解し、適切な対応を行うことが可能であると思われる。

キーワード ⇒ 認知症, 攻撃行動, 対応モデル, 認知症の行動・心理症状, 介護